

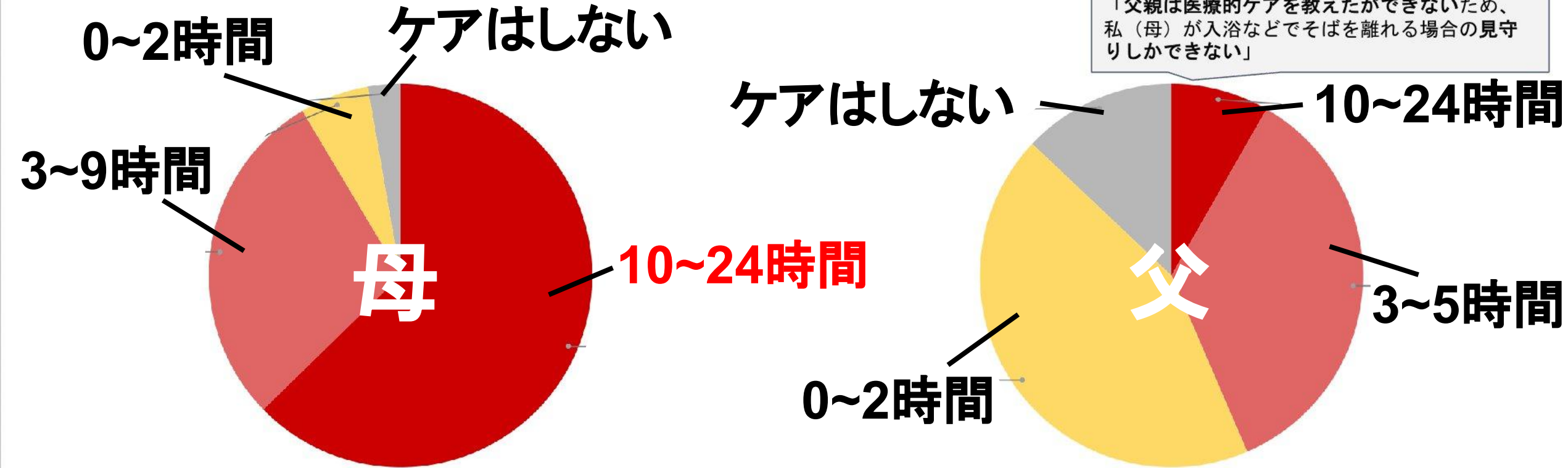
アンケートで見えてきたもの

- ◆保護者の限界が、既に多くの過程で表面化している
 - ・保護者の精神的逼迫感
- ◆レスパイト不足・就労困難・将来不安が生活を圧迫している
 - ・保護者の生活負担
 - ・保護者の就労・仕事への影響
- ◆支援が追いつかず「家庭が耐えられなくなる」リスクが現実味を帯びる
 - ・「使いたくても使えない」短期入所
 - ・自立・・・親の手を離れた生活の確立

ケア時間の分布と担い手の偏り

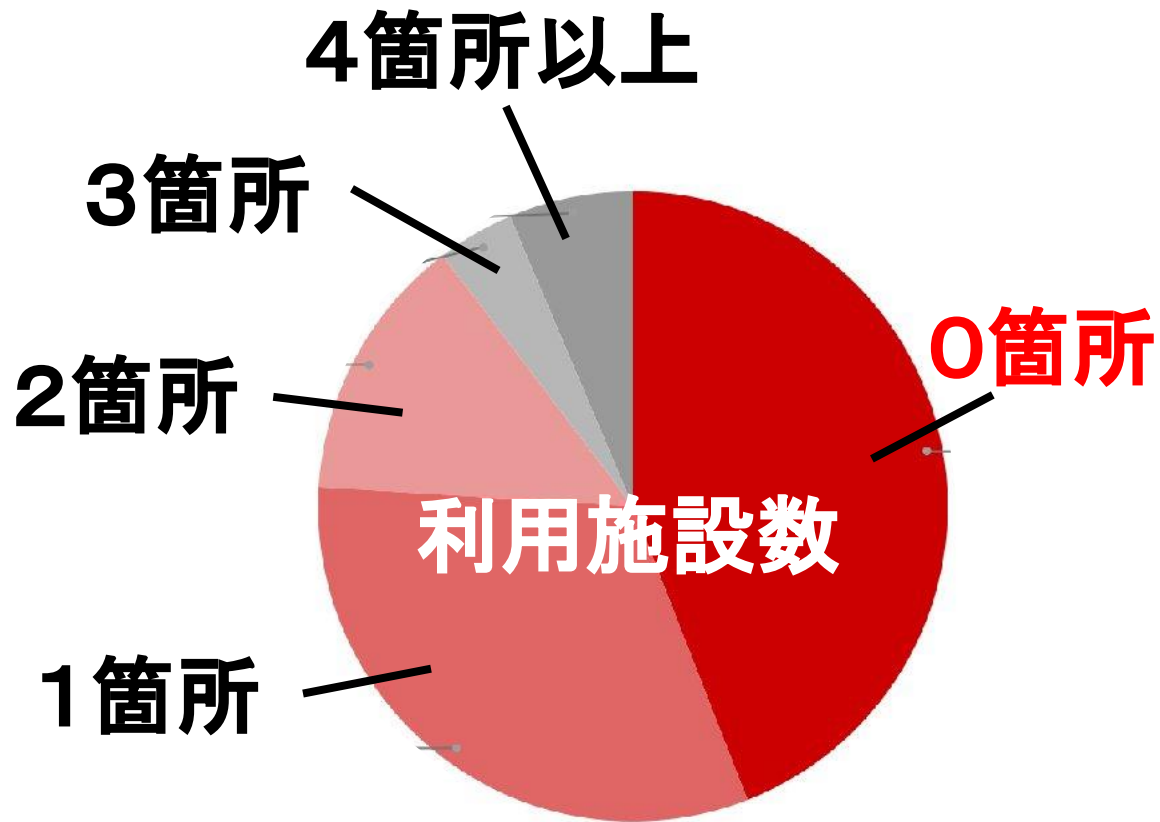
- ・ 母は「10～24時間ケア」が約6割と、ほぼ終日ケアを担っている
- ・ 父は「0～2時間＋ケアしない」が約6割と、担い手に大きな偏りがある
- ・ 一方で、父の約4割超は短時間ながらも「4時間超」のケアに関与しており、就労を継続しながら、限られた時間の中でケアを担っている実態も確認された

【父が主たる担い手になれない構造を示す声】
「父親は医療的ケアを教えたができないため、私（母）が入浴などでそばを離れる場合の見守りしかできない」



短期入所の利用可能施設数

- ・ 約半数の家庭が、そもそも利用可能な宿泊型の短期入所（レスパイト）施設を1つも持たない。
- ・ 施設がないことが、短期入所（レスパイト）が回らない最大のボトルネックとなっている。



【待機が長過ぎる・人手不足】

「利用希望を出しているが1年以上お試し利用の声もかからない」

「利用出来るようになるまでに半年近くかかる。体調不良等の緊急時に対応してもらえない(迎えに行かないといけない)」

「部屋は空いているのに人手不足でキャンセルされる事が多い」

【本人の状態による受け入れの制限】

「状態が安定しないと見てもらえない。中心静脈栄養に対応できる施設がない」

「常時誰かが見守り対応する必要があり、かかりつけ病院でさえレスパイト対応は難しいと言われている」

「多動な医療的ケア児なので、みてくれる施設が少ない」

明らかにになった問題と必要な援助

- 問題① 「親が限界まで追い込まれる構造」が放置されている
- 問題② 「働き方・収入・生活基盤」が崩れやすい
- 問題③ 休息・回復を可能にする短期入所」がほぼ機能していない
- 問題④ 「終わりのないケア」の中で将来像が描けない